ソフィアだより

11月
November

生きるとは　手をのばすこと
幼子（おさなご）の指が
プーさんの鼻をつかめり
俵万智

本屋さんで、ふと手に取った本が、俵万智さんの育児短歌の本でした。
３１の文字の中にその時の情景や親の愛溢れる心もちがあふれ、言葉一つひとつに人の心を動かす大きな力があるのだと、この短歌に出会い、あらためて思いました。

ソフィア園では、3歳児クラス以上で漢字絵本を使った音読を楽しんでいます。音読は、文字を目で追い、声に出して読み、その声を自分の耳で聞くという働きを同時に行います。幼児クラスでは文字を指でたどりながら読み進めるため、目・耳・口・指を連動させて使います。

また、日常の書類や情報の多くが横書きである一方、絵本や物語、教科書には縦書きの文章が多く見られます。縦に並んだ文字を上から下へ順に追う経験は、日本語の文章に親しみ、本を読む力の土台づくりにもつながります。教育学者の斎藤孝先生は、音読によって

「臍下丹田に力が入り、気持ちが静まる上に頭が活性化する」

と述べられています。音読は知識を詰め込むためではなく、美しい言葉やリズムを味わいながら、心と身体を整える時間でもあります。

ご家庭での読み聞かせは、子どもが大好きな人の声を通して言葉や物語に出会う大切な機会です。
秋の夜長、ぜひ絵本を開いてみてください。温かな時間の中で、子どもたちの豊かな言葉の世界が育まれていくことと思います。言葉は人と人をつなぐ大切な贈り物。園の中でも言葉の美しさや楽しさを子どもたちと一緒に味わっていきたいと思います。

ソフィア東生駒こども園
園長　中畑直実